第 364 号　　生徒さん・ご家庭・先生をむすぶ新聞

とらいあんぐる

2022 年 6 月

一音会ミュージックスクール発行

「本におぼれる」

先月号で、私が巨大な本棚と向き合いながら育った話をしました。

おとなになってから引っ越しをし、当時の本棚はもう存在しません。しかし、今も気がつけば、本があふれる生活を送っています。

本棚に入らない本を机に積み、積みきれなくなって山ごとずらし、別の山を築いて、また場所を移動し・・・。

いつの間にか、ずらす場所もなく・・・。

大手の古本屋さんで引き取ってもらったり、ネットのフリマで売ったりしますが、増えるスピードにかないません。

古い人間なのでしょう。電子書籍に、なかなかなじめません。紙媒体の本は、増える一方です。

おそらく私のような人間は、めずらしくないと思います。

この「あふれる本をどうするか問題」は、分かる人には分かる、大問題です。

文系の大学院にいた当時は、「あふれる本をどうするか問題」は、よく話題にのぼりました。

文系の学者は、例外なく、あふれる本とたたかうことになります。

私の知人の中には、「本を集めるのに疲れた・・・」という言葉をはいて、国会図書館に就職した人がいます。国会図書館は、日本国内で出版された本をすべておさめている図書館です。ない本がありません。

職場に完全なコレクションがあることで、ようやく本を集めることから解放されるのでしょうか。プライベートで本を集めなくて済むのは、確かに楽かもしれません。

国会図書館に勤めてしまった人は、私の知人の中に、２人います。

今回は、私の知る人物の中で、「あふれる本をどうするか問題」について、印象に残る対処をした人、４人を紹介してみたいと思います。

時には、小話を集めてみるのもおもしろいかなと思いました。

ケース１　「ところてん」

一人目は、私の伯母です。私の母の姉にあたる人で、心理学者です。

伯母は、本棚のサイズをあらかじめ決めていました。

新しく本を買うと、一番右に入れます。棚がいっぱいになって入らなくなったら、一番左の本を処分するのです。

ところてんのように押し出され、古い本が自動的に処分される仕組みです。

その話をきいた母は、とても驚き、「古い本でも、読み返さなくちゃいけないこともあるでしょう！」といいました。

伯母の答えは明快でした。

「学問は日進月歩。心理学は、５年もたてば、新しい発見もあって、理論ごとぬりかわる。本棚もぬりかえられていくべき」

ケース２　「やどかり」

二人目も心理学者です。

Ｓ先生は、大物の心理学者で、私が修士課程の学生だった頃、私設秘書としてアルバイトをさせてもらっていた先生です。

私がアルバイトを頼まれた時、すでに大学を退官されていました。

資料整理の目的で、やとわれたアルバイトでしたが、思えばあんまり資料整理する気はなかったのではないかと思います。本気で整理する気なら、私なんかじゃなく、もっと有能な人を選びます。

私は、今も昔も、資料整理が嫌いです。

Ｓ先生は、マンション住まいなのですが、部屋中、本があふれ、生活するスペースがなくなっていました。

ここまでは、よくある話です。

驚くことに、Ｓ先生は同じマンションの中に、もう１軒、部屋を借りていました。そこは、「書庫」と呼んでいました。呼び名の通りです。

ところが、どうやら「書庫」用に、もう一軒借りて「書庫」にした、というわけではないようでした。

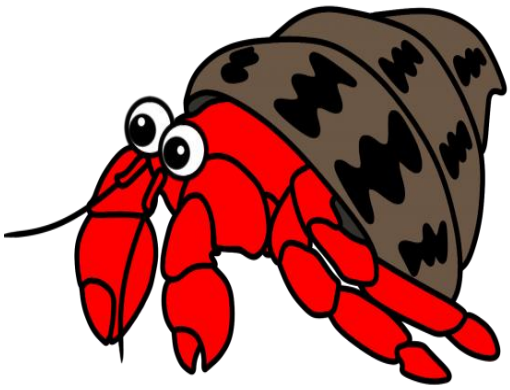
最初、住んでいたところが、本でいっぱいになり、生活ができなくなったので、仕方なく別の部屋を借りて引っ越した、ということのようでした。

新しく借りた部屋は、空っぽですので、快適です。

もと住んでいた部屋は、「書庫」となります。

その無計画に驚きつつも、私は感心していました。

２軒借りなくてはいけないという不経済を除けば、とても良い方法だと思います。



住めなくなったら、「書庫」にしてしまって、新しい部屋を借りてしまえば良いのです。

あまりにも良い方法だったので、Ｓ先生は、それを二度、やってしまっていました。

人間、一度やったことは、二度やってしまうもののようです。

引っ越した先も本でいっぱいにしてしまったＳ先生は、生活スペースを求めて・・・、いえ、おそらくそうではなく、なおも増殖する本をおさめるために、三軒目の部屋を借りるのです。

当時「書庫」は、「１号」と「２号」がありました。

ケース３　「地層」

三人目は、私が博士課程にいた時の先輩、Ｙさんです。

博学な人で、蔵書もすごい量でした。

図書館にない本も、Ｙさんにいうと、「ぼく持ってる。今度、持ってきてあげる」といってくれることがあり、どれだけ本を持っているのか、はかりしれない人でした。

Ｙさんは、どちらかというと苦学生タイプでした。

Ｓ先生のように、あふれる本の勢いにまかせて、次々部屋を借りるようなタイプの人ではありません。

どうやって、本をおさめているのか知りたくなって、きいたことがあります。

「どういう本棚を使っているのですか？」

「本棚？　あんなもの、スペースの無駄だよ。すきまができちゃうでしょ？」

「積むんですか？」

「うん、そうしていた時代もあった。壁にそって柱を築くイメージ」

楽しそうに、手で柱の形を作っています。

「あぶなくないですか？」

「そうなんだよね。くずれるとやばい。それと柱が何本にもなって、部屋が狭くなる」

「部屋はどうやったって、狭くなるでしょう？」

「いや、それがさ、画期的な方法があってさ・・・」

Ｙさんは、もったいぶって、長くニヤニヤしていました。

「教えてくださいよ！」

待たされた後、私は驚くべきアイデアをきくことになります。

「しくの」

「何を？」

「本を」

「どこに？」

「床に決まってるでしょ？ばかなの？」

「・・・・・」

Ｙさんの説明はこうでした。

高さがでこぼこにならないよう、厚みを考慮しながら、床にしきつめるのだそうです。

すきまができないように、ということも大切だそうです。

それを重ねていくのです。

「ち、ち、地層みたいな？」

「そう、そう」

「本の上で生活しているわけですね？」

「部屋がね、狭くならないんだよ」

「・・・・・」

「ただね、天井がね、低くなるよね」

「床が、高くなっているんですよね？」

「そうともいうね」

「発掘する時、たいへん？」

私は自分でいっていて、笑いがこみあげてきました。

こんなに、「発掘」という言葉がぴったりくるシチュエーションは、そうそうないでしょう！

でも、Ｙさんは真顔です。

「そう、だから必要な本は、はやめにいってよね」

ケース４　「マトリョーシカ」

「ケース３」のＹさんにはいいませんでしたが、そんなことをしていると、本の重みで床が抜けてしまうのではないか、私は心配していました。

最後にご紹介する「ケース４」は、床が抜けてしまった人の話です。

ここまでの３人は、全員、心理学者でしたが、４人目は中学校の先生をしていた人です。

Ｈさんは、一軒家を借りていました。

家主が親戚で、親戚から借りているような、少し特殊な借り方でした。

Ｈさんの蔵書も、すごい量でした。そして床が抜けました。

でも幸い、平屋だったのです。

Ｈさんは、ちっとも困りませんでした。

困っていたのは、圧倒的に家主でした。

「家を修繕したいから、出ていけ」と、再三、いいました。

でもＨさんは、出ていこうとしませ

ん。

あれだけの量の本をおさめられる引っ越し先を見つけることは、ほぼ不可能です。出ていくことは、本を処分することを意味していましたので、Ｈさんも必死で抵抗していました。

そのうち、本の重みで家がゆがんできたのでしょう。雨もりがするようになってしまいました。

雨もりは、Ｈさんもさすがに困ったはずです。大切な本が、ぬれてしまいます。

家主は、「追い出すなら今だ！」と思ったことでしょう。

雨もりがして、雨が家の中に入っては、家がいたみます。

「一刻もはやく修繕したいから、さあ、出ていけ！！さあ！！」

ここで、Ｈさんは驚くべき方法をとります。

家を包むように、家の外側に壁と屋根を作ってしまったのです。

家ごと、家に入れてしまったというべきでしょうか。

イメージとしては、マトリョーシカです。家の中に、また家があります。

雨もりは止まりました。

外側の家は、建てたばかりですから。

時代はペーパーレスです。ペーパーレス社会は良いことにちがいありませんが、少しさびしくも思うのです。

「ケース２」のＳ先生と、「ケース４」のＨさんは、すでに鬼籍です。

愛すべき変わった人々の工夫をきく機会が減ってしまうのは、とてもさびしいものです。

（江口　彩子）

◆「ピアノ発表会」が近づいてきました

６月４日（土）より、「発表会のおしらせ」をお配りしています。まだお持ちでない方は、ピアノの担当の先生か、ショパンはうす受付に、ご請求ください。

一音会ホームページの在会生徒さんのページでも、詳細をお知らせしています。

すでに「２０２２年 ピアノ発表会 出欠希望用紙」をご提出くださった方も、多くいらっしゃいます。ご協力に、深く感謝しています。「出欠希望用紙」の提出〆切は、６月２６日（日）です。

出欠席によらず、すべての方にご提出いただきたいと思います。メールやＦＡＸでもご提出いただけます。

メールアドレス： ichionkai.piano@gmail.com

ＦＡＸ番号　： ０３－３９５７－８８６４

今年のピアノ発表会は、下記の通りです。

８月５日（金）・６日（土）・７日（日）・８日（月）

成増アクトホール

（東武東上線「成増」駅より徒歩２分）

（東京メトロ有楽町線／地下鉄成増駅より徒歩６分）

大きな舞台をふむ経験は、重要です。音楽が人を魅せる芸術であることを、お子さま自身が体感できる機会になります。また、やり遂げ、大きな拍手をもらう経験は、ピアノを続ける上での大きなモチベーションにもなります。

また、自分と同じくらいの年齢の生徒さんがどんなふうに演奏しているのか、あるいは少し年上の生徒さんがどんな曲を演奏するのか、いろいろな演奏をきくことは、大きな刺激になります。普段、ピアノを習っているだけでは、案外、他のお友だちの演奏をきく機会が得られないものです。

この３年間は、あらゆるイベントが規制され、子どもたちの発表の場や挑戦の場が、大きく制限されてきました。このことは、お子さまの成長の過程で、たいへんな損失になっていると感じます。お子さまにとっても、ご家族の皆さまにとっても、です。

一音会の発表会など、微力にちがいありませんが、ぜひご活用ください。夏の大切な思い出として、長く皆さまの心に残ってほしいと、心から願っています。

「２０２２年 ピアノ発表会 出欠希望用紙」には、参加希望日を書いていただくようになっています。４日間の開催としておりますのは、ご予定と重ならない日を選んでいただきたいためです。

時間帯（部）につきましては、ご希望にそうようにいたしますが、部によって極端に人数が偏ってしまった場合のみ、個別にご相談の電話をおかけすることがあります。どうかご理解ください。

お申し込みいただいた後で、日程的なご都合が変わった場合は、できるだけ早くご連絡ください。

◆「リハーサル・トライ」をご活用ください

「ピアノ発表会」当日は、時間の関係で、リハーサルの時間をご用意することがかないません。また、当日のリハーサルよりも、少し前にリハーサルをおこなった方が「もっとこうした方が良かった」という、リハーサル時の反省を本番に生かしやすいということを、私どもは経験から確信しています。

そのために、「リハーサル・トライ」をおこなっています。「リハーサル・トライ」とは、文字通り、リハーサルです。あわせて、人前で演奏する経験を積む、グランドピアノで演奏してみる、普段のレッスン以外の先生に見てもらう、等といった目的も持っています。どれも、演奏にみがきをかけるために、大切なことばかりです。

くわしくは、「発表会のお知らせ」にはさみこんであるプリントをごらんください。ピアノ発表会参加予定の生徒さんは、無料でお受けいただくことができます。

イメージとしては、「ミニ発表会」です。ご希望いただいた時間帯の生徒さんの中で、発表していただきます。

グループには、経験豊かな先生がつきそい、進行にあたります。もし演奏に改善点があった場合には、担当の先生に連絡をします。生徒さんご本人に直接伝えて、混乱させることはありませんので、ご安心ください。

本番のような気持ちで、事前に一度、演奏をしておくと、やはり違うものです。それは、これまでに「リハーサル・トライ」を活用された多くの方がおっしゃることです。

すべての生徒さんが、本番で、持てる力を存分に発揮することができますよう、私どもスタッフも、全力でお手伝いいたします。

「リハーサル・トライ」の場所は、基本的には「ヘンデルはうす」１０３か２０４のお部屋を予定しています。

各曜日に、「リハーサル・トライ」の時間帯をもうけますので、ご都合の良い日時をお選びになって、お申し込みください（発表会のお申し込みとは別に、お申し込みいただく必要があります）。

お申し込み〆切は６月２６日（日）です。ご不明な点は、本部まで直接、おたずねください（０３－５９６６－７７１１・担当：伊藤、矢島）。

◆「ドクターP」の予約受付をおこないました

６月３日（金）正午に、「ドクターP」（絶対音感レッスンの通信コース）のご予約の受付を再開させていただきました。「ドクターP」は、ご希望の方が多くなりすぎたために、ご予約の受付を、しばらくお休みさせていただいていました。

前回の受付は、２月３日（金）でしたが、１分ほどで定員に達し、その後、閉じていました。先日、６月３日（金）正午に、ようやく受付を再開することができましたが、今回は１５秒ほどで満員になり、閉じることになりました。

ご予約のご予定だった方の多くが間に合わなかった件につきましては、たいへん申し訳なく思っております。

次回の予約再開日は未定ですが、年内にできればもう一度、受付ができますよう、鋭意、努力いたしますので、どうかご容赦ください。

ただ、その際は予約受付期間が１０秒未満になると思われます。つながりにくくなっているとのご報告もいただいていますので、できるだけ通信状況の良いところで、アクセスしていただきたいと思います。皆さまにご不便をおかけしておりますこと、心よりお詫び申し上げます。

◆発表会費の引き落としについて

発表会費は、7月２７日（水）の８月分お月謝引き落とし時に、お月謝と一緒に、お引き落としさせていただきます。よろしくお願いいたします。

◆時節のご挨拶・発表会の御礼など ご遠慮いたします

入会時にも「ガイドブック」にてお知らせしておりますが、一音会では、お中元、お歳暮、発表会のお礼などを、スクール、先生個人に関わらず、一切ご遠慮させていただいております。どうぞご理解のほど、お願いいたします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＊スクールの生徒さんのご質問を、以下の２つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp　　電　話：03-3954-9999

＊お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後 7 時～9 時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

＊ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お１人 10 分を目安とさせていただいています。ご了承ください。